

② ジャガイモを育てよう

10センチぐらいで芽かきを

ジャガイモは栽培の手間がかからず、保存もきくので家庭菜園にオススメの野菜です。一見すると根が肥大化したものに見えるジャガイモは、実は茎が肥大化したもの（塊茎）です。そのため、イモは種イモよりも上につき、地表に出やすくなります。

ジャガイモにはビタミンCが多く含まれており、その量はホウレンソウやミカンと同じ位です。ジャガイモ中のビタミンCは、でんぷんに守られて加熱しても壊れにくい性質を持っており、風邪の予防や疲労の回復、肌荒れなどに効果があります。

①種イモの準備

種イモは、60g前後のものは縦2つに切り、100g以上のものは4つに切ります。または、切り口を乾かすために早めに切り、陰干しをしておきます。

②畑の準備、植え付け

極端な酸性土壌でない限り、石灰類による土壌の中和は不要です。植え付け前に、うね幅が60センチになるように溝を幅15センチ、深さ15センチに切って1平方メートル当たり堆肥2キロ、化成肥料（成分15・15・15）100g、ヨウリン30gを施します。5センチほど土をかけてから種イモを25～30センチ間隔で植える方法（例1）と、クワで10センチ位の深さの植え溝を掘り、種イモを25～30センチ間隔に並べ、その間に元肥を施して覆土する方法があります（例2）。

③芽かき、追肥と土寄せ

芽が10センチぐらい伸びたら、1株当たり2、3本の丈夫な芽を残して芽かきをします。芽かきが終わった時と花の膏が出た頃に1平方メートル当たり追肥用化成肥料（16：0：16）20～30gをうねに沿って施し、株元に土寄せをします。

④病害虫防除

雨が多く多湿な時期に発生する疫病と葉を食害するヨトウムシやハダニなどのほか、イモを食害するコガネムシの幼虫が発生するので、毒性の低い殺虫剤による防除をします。

⑤収穫

茎葉が黄色くなり枯れてきた頃、2～3日晴天が続いた後、掘り上げ、畑で2～3時間乾かしてから取り込みます。生育後期に疫病が発生したら収穫を早めに行います。未熟イモや緑化イモは、食中毒を起こす恐れがあるので食べないでください。



（鹿児島市都市農業センター）

平成31年3月14（木）／南日本新聞